

「ハーブ」

キアゲハの幼虫の話で登場した、テラスのハーブ。

息子が小学生の頃、テラスで生い茂っていた数種類のハーブ。

パスタや鶏肉料理に使ったり、製氷皿に入れて氷をつくったり、ときにはたくさん摘んでバスタブに浮かべ、ハーブ湯にしたこともあった。

その頃は、近所の子どもたちがよく遊びにきてくれて、テラスのガーデンテーブルやベンチでおしゃべりをした。

「ハーブをそっと触ると、ふわっと香りがする」なんて話をすると、皆、興味津々だった。

ある日、テラス側の窓を全開にしていたら、よく遊びに来ていた近所の小学生の男の子が、女の子と一緒に家の前を通りかかったのが見えた。

当時4年生くらいだったと思う。

道路際に並べていたハーブのプランターの前で立ち止まり、何やら話をしている。

「ほら、これ触ると、いいにおいがするよ」

「ほんとだぁ」

身を寄せ合ってプランターをのぞきこみ、香りを確かめていた。

ふたりは目をキラキラさせていた（と思う）。



可愛さに感動せずにはいられなかったことを思い出した。

ずいぶん長いこと忘れていたエピソードだ。

現在、ハーブの栽培はしていないし、したとしても、もはや息子がハーブを摘んでキッチンに持ってきてくれることはあるまい。

引っ越しをしてから一度もお会いしていないあの日のふたり。

大人になった彼らに思いをはせる。

子どもの頃の思い出の1ページとして、このハーブのエピソードがランクインしているかわからないけれど、どこかでハーブの香りを感じた時に、ふたりの脳裏にふわっと何かはよぎるかしら。

私は、あの日の空を思い出した。

